

研究・調査報告書

報告書番号	担当
202	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) Impact of age at first drink on stress-reactive drinking. 飲酒開始年齢がストレスによる飲酒に与える影響	
執筆者 Dawson DA, Grant BF, Li TK.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Alcohol Clin Exp Res. 2007 Jan;31(1):69-77.	
キーワード 飲酒開始年齢、若年飲酒開始、ストレス、飲酒量	
要 旨 目的： 近年の動物実験モデルは若年時のエタノール暴露が成熟ラットの自発的なエタノール摂取を増加することを示している。しかし、ヒトにおいて飲酒開始年齢がストレスと飲酒の関連に与える影響は明らかではない。	
方法： 2001年から2002年のNational Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions (NESARC)調査を元に、飲酒歴のある26,946人を対象に飲酒開始年齢がストレスと日々の平均飲酒量の関連に与える影響を検討した。(1)社会人口学的特性、(2)(1)に加え、アルコール依存の家族歴、精神疾患、青年期および過去の喫煙や違法薬剤使用、(3)(2)に加え、今回の研究で観察されたストレス数と有意な相互作用を示した共変量との相互作用を調整したうえで、飲酒開始年齢(14歳以下、15-17歳、18歳以上)とストレス数(過去12年間に起こったネガティブなライフイベント12種)を調整した。	
結果： ストレスに影響を与える様々な交絡因子と相互作用を調整しても、飲酒開始年齢が14歳以下の場合、ストレス数(0から12まで)と日々の平均飲酒量の関連は飲酒開始年齢が18歳以上と比較して8%増加していた。実際、この年齢層でのみストレス数と飲酒量は正の関連を認めた。また、飲酒開始年齢が14歳以下の場合、ストレス数(0から12まで)が1増加すると日々の平均飲酒量は7%増加していた。	
結論： 今回の結果は若年時のエタノール暴露はストレスによる飲酒量の増加を来たす可能性があるという仮説と一致していた。しかし、さらに、ヒトにおいて実験的な研究方法を用いて、ストレスと短期に引き起こされる飲酒量変化の関連に飲酒開始年齢が及ぼす影響の検討を加える必要がある。	